

## 二段凝集やIoT等活用を

日本技術士会中国本部上下水道部会

## 公民連携や汚泥減量化も紹介

道コンサルタント協会中国・四国支部と共催して

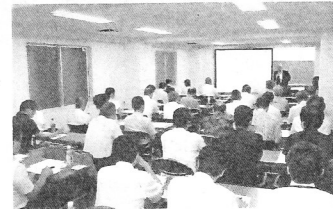
注する「二段凝集(後

日本技術士会中国本部上下水道部会は、平成30年度講演会を、広島市内で開催した。昨年度から全国上下水道

おり、講演会は4回目。基調講演1題と講演2題が行われ、ウエブ中継された東京会場を含め、約60人が出席した。堤行彦・福山市立大学教授が「水道事業における課題とその技術的対応」と題して基調講演。堤教授は技術継承が困難な場合、浄水場の運転管理では薬品注入対応が重要と指摘し、沈殿池と急速ろ過の間で凝集剤を再

凝集」をはじめ、IoTなどを活用した水処理と情報制御を融合したシステムを紹介した。講演は▽公民連携水道会社「水みらい広島」の取り組み(三島浩二・水みらい広島社長)▽汚泥減量化の開発(楠敏明・アクアテクノス代表取締役)。三島社長は設立5年の成果として、新規プロパターの継続採用や見える化の推進などを挙げ、今後人材育成に重

点を置く方針を示した。楠代表取締役は好気性細菌を活用し、食品工場などで汚泥発生量を従来の3分の1以下に削減した事例などを紹介した。



広島と東京で60人が出席